

最近の活動の状況

◇電話相談◇

子どもの虐待防止ホットライン 2014年4月～2015年3月31日 電話相談結果報告

①総受信件数 1,226件

<内訳>

1) 相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
女性	6	98	258	308	139	21	215	1,045
男性	5	10	74	19	8	0	48	164

性別不明 17件

2) 利用回数

初回	継続	不明
606	615	5

3) 相談時間

~9	~19	~29	~39	~49	~59	60分以上
162	135	215	155	154	97	308

4) 被虐待経験の有無

あり	なし	不明
591	89	546



② 内容別件数

虐待(含む危惧)	185
18歳以上の虐待	432
育児不安	273
マスコミ・問合せ	35
その他の相談	260
無言・ノイズ	41

虐待の型

身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
97	305	170	32	13

開花の早かった今年の桜も、見ごろは今日が最後かと報じられている日によくやく発刊に向けた準備がほぼ整いました。年度替わりのこの時期、それにご多忙の中、ご無理をお願いしまして原稿をお寄せいただきました方々には本当に感謝申し上げます。一方で、折角ご寄稿いただきながら、編集委員の不手際ゆえに掲載を割愛せざるを得なかった一部の方々にはまことに申し訳ありませんでした。誌上をお借りして、お詫び申し上げます。

編集担当者：隈元真理子 野田正文



編集後記



「むずかしいお子さんを持つお父さん、お母さんとのつきあい」

電話相談員研修

講師 桶山文学園大学准教授 堀田あけみさん



近年、発達障害のある子どもたちへのかかわりが課題となっています。虐待との関係でこの悩みを訴える電話も少なくないことから、今回この研修が企画されました。2014年12月7日(日)午前、相談員30数人が集まり、堀田さんのお話をうかがうことができました。あらかじめ三つの質問が示され、それに沿って進められました。ひとつは祖父母の理解を得るにはどうしたらいいか、つぎに親が楽になるにはどんな対応がいいのか、さらに親が追いつめられている時どう対応すればいいのか、というものです。

堀田さんのお話はこんなふうにはじまりました。虐待される子の多くが発達障害や他の障害をかかえているが、その障害の原因が虐待にあると考える人がいます。でもそれは逆で、子どもがどうしてそういう行動をするのかわからないのでつい暴言を吐いたり、手が出たり、無視したりしてしまうことがあります。

「障害」という言葉は重いので、否認されやすいのです。

「育てるのがむずかしい子」というほうが受け入れやすいので、こちらを使うほうが相談しやすいと思います。私たちの年代でもそうですが、発達障害なんてとんでもない、うちの孫に発達障害なんかあってたまるか、孫のむずかしいところは親の不手際、嫁・婿の不手際という考え方ですね。やっかいなのは年輩の教育者に発達障害への理解がなく、親の怠慢というとらえかたの方がおられることです。そういう方は叩いたりどなったりやってこられたので、理解をしてもらうのはまず無理です。祖父母も同じですが、きちんと説明するとわかってくれる方もおられます。月に一度、お母さんにお小遣いを渡して、私がみているから息抜きしているらしい祖母もみえます。なかなかわかってもらえない時は、よそでストレスの解消を考えるのがいいですね。相手の出方を見極め、話の通じない人とは戦わない、そのエネルギーは支援に使うほうがいいです。

つぎにお母さんに楽になってもらう対応、役に立つ対応ですが、とにかく聴いて聴いて聴くことです。アドバイスを求めているようでも、人はとやかく言われたくないのです。

説教したい人は良い聴き手にはなれません。人の話を聞く、話を受け止め続けるのはむずかしいことです。本当に指示を必要としているのか、本当はどうしたいのかを明らかにする、もしくは話をさえぎらないで聴くだけでもいい。こんなにも聴いてくれる人がいる、というのが大事です。電話では表情がわからないのでよりむずかしいですが、こちらの意見が聞きたいのか、背中を押してほしいだけなのか、受け止めてほしいのかを感じ取ることが必要です。

また例えば「もう死んでしまいたい」などの言葉も出てくることがあると思いますが、「そんなこと言いわないで」ではなく、「そういうお気持ちなんですね」と受け止めてください。どんなお母さんでも、たとえ瞬間にでも思うことです。子どもの顔も見たくないとか、産むんじゃなかったとか、そういう袋小路に突き当たるものです。こんなに悩んでいるのは私だけと思い込むものです。もうダメだという時にはそう思われるんですねと一旦は受け止めて、それから楽しかった思い出などポジティブな感情を引き出せるといいわけですが、どこにも見つけられないという場合もあります。ただそんな時「それは絶望でなくて失望なんですよ」と言ってください。

「望みが絶えているのではなく、失っているだけじゃないんでしょうか」と。だから言われることを否定したりしない、そこから次の道を見つけられる、だから一緒に考えていきましょうということです。



さらに相談員から「祖母からの相談で、母親（娘）は子どものことに気づいていないようなのだが私が伝えたほうがいいのか待っていたほうがいいのか・・・」という電話があってどうお答えしたものか迷いました、という話が出ました。堀田さんのお考えは明快でした。ご自分の娘さんなら言ってあげたほうがいい、多分ご本人はそうじゃない、そうじゃないと否定し続けているのだから。ずいぶん苦労しているようだから、ちょっと相談に行ってみたら一でいいんじゃないかな。受け入れたあとに、きっと感謝してもらえると思う。親が受け入れないまま子どもが大学生になり、ゼミや実習でつまづくという例もある。その子にどういう問題があるのか、明らかにすることが幸せにつながる、本人が一番楽になれるということです。

髪や身体に触られるのを嫌う子もいます。私たちは一度に二つ三つのことをこなしていることもあります、それが苦手という子もいます。耳から入る情報はうまくこなせないが、視覚は得意かもしれない。また私たちはあまり意識せずに抽象的な言葉を使ってすませているが、それでは通じないこともあります。具体的に伝える、情報を小分けにするなどの工夫がいります。こういう子にはこういう接し方という専門家のアドバイスを受けましょう。

堀田さんのお話は、時にご自身のご家族のことをユーモアのうちに語られ、いろいろな子どもや学生を見てこられた体験に裏打ちされた、とてもわかりやすいものでした。多くを学ばせていただき、ありがとうございました。
CAPNA 理事 馮元眞理子

「DVは関係性の問題である」

-信田さよ子さんの講演会・3団体で開催-

2015年2月13日（金）にDV被害者サポート・ネットワーク会議（かけこみ女性センターあいち NPO法人ファミリーステーションRin NPO法人CAPNAの3団体）で信田さよ子さんをお招きし、東建ホールで「家族内暴力を防ぐために～わたしたちにできることを考える～」を開催しました。

信田さんの講演会において特に关心を持った点について報告したい。

DVを考えるときに重要なのは、関係性の問題であり、二者間に力の不均衡が生じ、それが支配被支配の関係をもたらすということであると言われている。信田さんも講演のなかで「他者と自らの関係性に敏感になる」と話されている。家族という集団が内包する不平等さが虐待やDVとなって顕在化する、そして「殺人事件の約半数が家族関係で起きている」と。だからこそ、家族は危険なのである、という認識は多くの人は持っていない。

家族内で暴力が起きないようにするためににはどうしたらいいのか？「非暴力的な父が次世代の家族の平和をつくる」「家族問題は男性が鍵を握る？」と信田さんが言われても、こういった講演会に足を運ぶ男性が少ないのが実情。しかも、政治の世界では、集団的自衛権の御旗のもと、国益のためには暴力も厭わないとばかり、自衛隊による海外派遣、無力行使もやむをえないとする考えがまかり通ろうとしている。いわゆる「暴力の正当化」、DVにおいて加害男性たちに共通する言い訳「暴力を振るいたくて振ったのではない、相手が自分のいうことを聞かないから仕方なかった」と根は同じ考え方ではないだろうか。



お知らせ（活動報告や今後の予定 お問い合わせは事務局まで）

- 2015年3月 8日 名古屋SORAゾンタクラブのチャリティビンゴパーティ
- 2015年3月29日 子どもの虐待防止世界会議名古屋2014合同委員会打上げ
- 2015年4月22日 愛知県弁護士会就任披露会（ウェスティングナゴヤキャッスル）
- 2015年5月17日 2015チャリティーウォーカソン（モリコロパーク）
- 2015年5月24日 第20回 CAPNA 総会（名古屋市社会福祉総合会館）
- 2015年6月 4日 名古屋葵ロータリークラブ創立10周年記念式典（東区葵）

◇シェルター事業（10～3月末日）

	受付先	経路	利用者	内容	判断	支援	支援結果
10月	事務局	機関	母、子	DVケース	該当	利用せず	
11月	事務局	機関	母、14歳男・11歳男・4歳男	DVケース、虐待	該当	利用	30日間
11月	事務局	機関	母、子	DVケース	該当	利用せず	使用中
12月	事務局	機関	母（18歳）、4ヶ月児（乳児院）	DVケース	該当	利用せず	（未成年）
1月	事務局	弁護士	母、11歳女	DVケース、虐待	該当	利用	25日間
1月	事務局	機関	母	DVケース	該当	利用せず	使用中
2月	事務局	機関	単身女性	DVケース	該当	利用せず	使用中
2月	事務局	機関	母、子	DVケース	該当	利用せず	使用中
2月	事務局	機関	単身女性	虐待	該当	利用せず	
3月	事務局	機関	母、小3、小2、年長	DVケース、虐待	該当	利用せず	転校

◇メール相談（10～3月末日）

～事務局だより～

月	受信件数
10月	63件
11月	112件
12月	103件
2015年	
1月	127件
2月	133件
3月	126件

新年度が始まり、街中には真新しい制服やスツに身を包んだ人たちが多く見られるようになりました。早いもので、今年CAPNAは設立20年目の節目を迎えます。この20年、電話相談から始まり、予期せぬ妊娠の電話相談や母子シェルター、昨年は特別養子縁組説明会など、様々な『虐待防止活動』をおこなってきました。CAPNAが設立された当初の理念・目的を忘れることなく実直に活動したいと、年度初めに思う次第です。

事務局 兼田 齊藤 水野

後日送られてきたお礼状によれば、この本の印税相当額は、「こうのとりのゆりかご」で多くの子どもの命を救ってきた熊本の慈恵病院の活動に寄付されるそうです。

なお、この本は CAPNA 出版でもご購入いただけます。CAPNA 理事 今西洋子



キャプナ出版でも書籍の販売をしております。
詳しくはキャプナ出版・石田まで
(052-232-2880)



～相談員だより～

早いもので、相談電話をはじめて3年になりました。
それなのに、まだまだ電話相談の部屋に入ると緊張してしまいます。
みんなが笑顔でいられるように。

そして、かけがえのない命を救えるようにと願いながら電話をとっています。
電話をとっていて思うのは、子どもの頃に負った傷に苦しめられているひとが多いこと。ずっとその傷が癒されることなく大人になってしまいそのために、気持ちが不安定で自分の居場所がないと感じて悩んでいる・・・「子どものケアの大切さ」を感じています。

のためにわたしができること。
CAPNAの一員であることを意識し、今、自分にできる精一杯のことを一生懸命する。
電話相談だけでなく、これからはさまざまな角度から「子ども虐待防止」の広報活動にも積極的に参加していきます。

はじめた頃の気持ちを忘れずに、すべては子どもたちの笑顔のために！！

(土曜日 G T)

寄付者一覧 (H26.10~H27.3)

今西洋子 早川真理 井上光子 尾関恵美 伊藤直季 塩出澄子 石川知子 前島美津枝 柴田美智子 (有)キャプナ出版 田中みゆき 岡田尚子 公益財団法人パブリックソース財団 飯沼敏子 内藤雅子 兼田智彦 水野正三郎 野田正文 松岡典子 村田太 立正佼成会 在日米国商工会議所 木澤和子 本家かまど家 くまの会 競朗子 中川ひで子 石田金司 嶋康子 萬屋育子 横堀三千代 水谷隆志 青松加幸
(順不同 敬称略)
匿名寄附8件



ご支援ありがとうございます。

残念ながら、まだまだ政治の世界は男中心、そういう男どもを非暴力化させるために私たちに何ができるのか？単にDV被害者支援としてだけではなく、だれもが「多様な暴力」について考え、「いかなる暴力にも理由を許さない＝非暴力」との姿勢を貫くことが大切なのではないかと思う。

かけこみあいちスタッフ S



「サポートにはネットワークが大切」

最近、新聞やメディアで取り上げられる事件に家族内の事件が増えたような気がする。

でもそれは、事件の件数が増えたのではなく、これまで夫婦間や親子間等の家族の問題は、あくまでも個人的な問題、民事的なこととして片付けられていたことが、社会的に認知され、社会全体で考えられなければいけないということが認識されてきたからである。そういう問題に、長年、カウンセラーとして様々なクライアントと向き合い、主訴内容の分析をし、その中から出てきた問題を、社会に発信し続けている信田さんのお話は、説得力があり、とても納得がいくお話を聞きました。



講演会当日に
CAPNA 相談員
の池田さん作の
信田さんをイメ
ージしたアレン
ジメントフラワ
ーです。

家族の問題を考える時、日本の社会では、子どもの問題、高齢者の問題、夫婦の問題とそれぞれ分けて考える機会が多く、支援者のグループも、それぞれ別の問題として取り組んでいる。しかし、それぞれは別の問題に見えて、密接につながっているといえる。

子どもの問題を抱えて相談に来る人の背後には、夫婦の問題が潜んでいることがある。親のDVを子どもが目撃するのは、児童虐待である。そしてDVを目撃しながら育った息子の多くが、成人してからパートナーに対して暴力をふるうようになる。这样一个事例からもわかるように、それぞれの問題が密接につながっている。そして、わたしたち支援者もネットワークを組んで、家族内の暴力という問題に取り組むべきだということを、改めて認識できた講演会だった。

(NPO法人ファミリーステーションRin O)



知りたい「子どもたちの性の問題現状と課題」研修会報告

本年3月1日（日曜日）に、名古屋市東別院にあるイーブルなごやにて、咲江レディスクリニック院長・丹羽咲江先生の講演会を開催させていただきました。先生は以前名古屋市立病院にてハイリスク妊娠やその分娩などに携わってこられましたが、その後もっとゆっくり患者さんたちと接し、その悩みなどに向き合いたいと、市内でクリニックを開業されました。

今回クリニック開業以来関わって来られた思春期の子どもたちの性の現状を、わかりやすくお話をいただきました。当日参加の方も含め総勢71名、たくさんの方の参加がありました。できました。

保健師・助産師等女性と子どもの健康や福祉に関わる専門職のみならず、思春期の子どもを持つ母親たちの参加がありました。会場では熱心にメモを取る姿もみられ、この問題に対する関心の高さをうかがうことができました。

先生は中・高校生や大学生向けに、自分の性の向き合い方や、望まない妊娠を避けるための知識を伝える性教育も積極的にこなしておられます。

また、日々の診察のなかでは予期せぬ妊娠をした女子や女性たちから「自分は妊娠しないと思っていた」「避妊は彼がしてくれる」などの声を多く聞くことに危機感を抱いていること、そのため女性自身が自分の体を自分で守る意思を持つことの大切さを伝えていると話されました。「妊娠は成り行きでするものではない」とや、避妊については「相手任せではいけない。」ことなどをアドバイスすることが多いとのことでした。

講演ではそのほか性感染症や、避妊についての最新事情、セクシュアルマイノリティについて、さらには性暴力の対応（特に被害者の精神的ダメージは大きく継続的な心理的ケアの必要性が高い）ことを学びました。また若年者の性の課題には、年齢に応じた予防的教育が有効であること、そしてそれは女子だけでなく、男子にも不可欠な教育であるという話には、参加者の多くが頷いていました。



参加者アンケートからは『性教育の重要性を改めて感じた』、『親として知るべき内容だと思った』『現代社会の子どもを取り巻く社会状況と性の課題を学ぶことができた』などの声を聞くことができ、参加者満足度の高い講演会となりました。

終盤、先生から性教育の補助教材として先生自身が作成されたDVDを紹介いただきました。このDVDは、家庭での性教育などにも使用できるもので、『妊娠』『出産』『デートDV』などの内容別チャプターになっているため、必要な内容を必要な時に再生できるものであるとの説明でした。実は私は実際に高校での性教育に「デートDV」のチャプターを使用させていただきましたが、高校生の反応も良く、汎用性の高いDVDであると実感しました。



映像を用いた教材でかつ名古屋弁での会話も盛り込まれており、若者に馴染みやすい教育補助教材として今後も様々な場面で活用されると思いました。

子ども虐待の死亡事例の背景には望まない妊娠が多いことは知られているところですが、その未然防止のためにも、地域や家庭で大人も子どもも性に対して正しく学び、自身の体やいのちや健康が脅かされないように、そして自分だけではなくほかの人の性も尊重できるようになることが重要ではないかと改めて感じました。加えて子どもたちが晒されているSNSで繋がる危険な関係性のリスクからも、子どもたち自身が自分を守ることできるような教育も地域や家庭、学校現場などで勧めていきたいと思いました。

最後に、ご多忙な中講師を引き受けいただいた丹羽咲江先生に改めて感謝申し上げます。

CAPNA理事 助産師 松岡 典子



「赤ちゃん縁組」で虐待死をなくす～出版記念祝賀会～



著者・矢溝田篤二さん・萬屋育子さん

まだ春浅い3月1日、KKRホテル名古屋にて矢溝田篤二さんと萬屋育子さんの共著『「赤ちゃん縁組」で虐待死をなくす～愛知方式がつないだ命～』の出版祝賀パーティーが開かれました。会場には里親さん、これまでお二人の取り組みを取材してきたマスコミの方々、児童相談所、県、市の子どもの福祉担当者、CAPNA設立当初からのお仲間など、全国から70名以上の方が集い、本の出版を祝うとともに、改めて妊娠中の相談、出産